
重い想い

123

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

重い想い

【Zコード】

Z1678Z

【作者名】

123

【あらすじ】

重い一言を言った時の弟の想いと、言われた兄の決意。

悪魔って何だ。悪魔って。しかもよつとよつてあの兄さんが・・・。
でもこんな嘘みたいな話でも、この世のものでは無いものが見えた
らそりゃ信じざるを得ないよ。

悪魔が存在するって現実を。自分の兄さんが悪魔だって現実を。

あれから兄さんを守れるようになるためにどんなに苦労してきたことか。

兄さんのなかの悪魔を目覚めさせないよ!じれだけ気を配つてきたことか。

でも駄目だった。目覚めてしまった。
僕が恐れていた通りに。

神父さんが恐れていた通りに。

兄さんはこれからどんどん悪魔に取り込まれてしまつんだろうつか?
兄さんは僕の知つてゐる兄さんじゃなくなつてしまつんぢやうつか?

僕がどんなに努力しても?どれだけ頑張つても兄さん(悪魔)には
届かない?

ならばいっそ。

いっそ。

「死んでくれ。」

* * *

悪魔だつて？ 悪魔だつて？ 僕が？ 何だそりや。
悪い夢でも見てんのかな、 僕。

でも神父さんの最期は俺が一番わかつてゐる。
一番受け入れたくない現実だ。

ああ、夢ならいいのに。

田が覚めると、雪男が困ったよつた顔で笑いながら「何寝ぼけてる
の？」って言つたんだ。

「死んでくれ。」

雪男の声。 だけど期待していた台詞じゃなくて。

そうだよな。 お前のその苦しい声が、悲しい声が現実だよな。

たつた一人の弟を苦しめてどうすんだ、 僕。
そんな思いつめた顔させたのが俺なんだつたら、 俺がなんとかしないでどうすんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1678z/>

重い想い

2011年12月5日23時47分発行